

好奇心からコンクリート業界へ

「手を加えた機械が良くなることにやりがいを感じる」

河島コンクリート工業株式会社（東京都板橋区、河島慎吾社長）で設備メンテナンスを担当しているインド国籍のマニッシュ・クマールさん（27歳）は来日して17年。東京都立北豊島工業高校（板橋区富士見町）の総合技術科を卒業し、就労活動に制限がない在留資格（永住権）を獲得。7年前から河島コンクリートで機械設備のメンテナンスを担当している。河島社長は彼の印象を「たまたま国がインドというだけで、日本人よりも日本人らしい」と話す。マニッシュさんに生コンと関わるようになったキッカケと仕事の魅力を聞いた。

好奇心からコンクリート業界へ

マニッシュさんはインドの首都ニューデリー出身。料理人をしていた父が日本で店を開くため、小学校4年生のときに来日した。「当時は日本がどこかもわからず、何が何だかわからないまま来日しました」と振り返る。小学校では英語とヒンディー語しか喋れなかったマニッシュさんのため、先生が授業の内容を英語に通訳してくれたほか、英語でプリントを用意してくれるなど「ずいぶん良くしてもらった」という。家族間での会話はヒンディー語だが、学校や外の人と話すうちに、2年ほどで日本語を使いこなすようになった。日本で暮らす中で、すっかり日本に染まってしまったため、「5年前に家族でインドに遊びに行ったときは、日本語が聞こえないことに不安になりました。言葉は通じるのですが、海外に来た気分になっちゃって」とおどけてみせる。

高校卒業後に河島コンクリート工業に入社したマニッシュさん。コンクリート業界を就職先に選んだ理由は「珍しかったから」だという。通っていた学校に届く求人の中で最も想像がつかない業種だったことから

応募した。高校時代の授業でもコンクリートに触った経験はなく、純粹に好奇心からの応募だった。

マニッシュさんの面接に立ち会った河島社長は「一目見た印象では肌の色や国籍がインドであること、生まれた環境の違いをどうしても見てしまうが、そういったものとは関係なく目のキラキラした将来の楽しみな若者だと感じていた」と話す。

創意工夫で作業性を向上

現在はプラント内のメンテナンスを担当している。日々のメンテナンスに加えて、導入した設備に手を加え、より使いやすくなるようバージョンアップさせる。
「自分で手を加えた

マニッシュ・クマール さん

河島コンクリート工業株式会社 製造二課

趣味：バイク（乗るのもいじるのも）

好きな食べ物：焼肉（友人に「いいの?！」と聞かれたら
「郷に入れば郷に従え」と答えています）

嫌いな食べ物：魚

好きな季節：夏 嫌いな季節：冬



機械がどんどん良くなることにすごくやりがいを感じます。『創意工夫で作業性を向上させる』という上司の考えがあり、自分の考えを自由にやらせてもらえることが楽しいです」とし「入社する前は朝から晩まで汗を流して働くキツイ環境を想像していたのですが、全くそんなことはなく、とても働きやすいです。分からないことがあっても、上司に相談すれば一緒に考えてくれるので、安心感があります」と充実した様子を窺わせた。設備改良の一例をあげるとベルトコンベアのローラーの径を太くして、回転数を減少させることで故障のリスクを低減したほか、脱水機の濾布の掃除に使用する高圧洗浄機の圧力を上げて濾布をより長く使

えるようにする等の改造を行った。こうして培った技能は趣味のバイクに応用できるためプライベートにも役立っているのだという。

ただ、マニッシュさんが日々の点検の中で苦慮するのは大型機械の対処だという。大型の機械は故障の頻度が少なく、実際の故障現場を見る機会が少ないためどうしても対処に時間が掛かる。「大型機械はミキサや電力盤、減速機といった目に見えない箇所も多く、音で違いを探って、気が付いたら業者さんに連絡するようにしてはいるのですが、突然動かなくなることもあるので、そこが怖いです。会社の安定した操業のためにも経験を積んで対処できるようになりたいです」

日々のメンテナンスはコスト面からも重要だ。今年の5月に「材料受入」から「現場への出荷」まで、すべての生コンクリート製造工程において暑中コン対策を備えた「完全遮熱プラント」を完成させた同社では、最大2℃まで練り水を冷却する装置チラーの運用にかかる電気代だけでも一日に数万円程度掛かっていく。河島社長は「しっかりとメンテナンスをしないと熱交換率が悪くなり、さらに電気代がかさんでいく。設備が壊れてしまうと、安定した品質の製品を供給で



近隣の小学5年生が訪れた工場見学会の様子



練り水冷却装置

きなくなってしまうリスクもあるため、縁の下の力持ちとしてよくやってくれている」と設備点検の重要性を再確認する。

業界を知って貰うことが 人材確保のスタート地点

メンテナンス係はマニッシュさんを含め現在3人。働きぶりに満足する一方で、河島社長は「メンテナンス係に留まらず、試験室やオペレーター室でも若手社員をどんどん採用して、これまで第一線で頑張ってくれている上の世代に楽をさせてあげたいのだが、人材確保は容易ではない」と課題を示す。現在の従業員数は47人だが「マニッシュさんを採用した時代に比べ、門を叩く人の数が明らかに減ってきている。もっ

とコンクリートを知らない層に訴求する方法を考えていかないといけない」と話す。

同社では近隣の学校の児童を対象とした工場見学会を2011年から毎年実施しているほか、自社のアジテータ車が掲載されている児童向け図鑑を練馬区と板橋区の小学校に寄贈、テストピースをモデルにしたマスコットキャラクターのぬいぐるみを製作し近隣の高校に配布するなど業界PR活動を積極的に行っている。「河島コンクリートを、というよりも生コンクリート自体を知ってもらうところから始めなければならない。各業界で人手不足が顕在化し、優秀な人材の取り合いになっているため業界のイメージアップを図らなければ人は集まらない。そのためにも生コン価格を適正価格に近づけ、コンプライアンスに配慮した労働環





左から新東産業 田辺 昭人氏, 河島 慎吾 社長, マニッシュ・クマールさん, 諏訪 眞也 工場長

境作りをしていく必要がある」と力を込める。

外国籍人材の採用については「アルバイトで韓国籍の女子学生が活躍してくれているが、国籍で区別せずうちで働きたいという人がいれば門戸を開いて待っている。ピザ更新等に係る費用を会社でサポートする等の仕組み作りは必要だとは思うが、手続き的な難しさがあるわけではない。マニッシュさんのように永住権

を取得している場合であればなおさらで、今後も分け隔てなく採用を図っていきたい。アルバイトの方は将来的にはアパレル関係の仕事に就きたいと話しているが、それでもいい。業界を知って貰うことから始めるべきだ」と見据える。

その上で「業界に入ってくれたら、ぜひコンクリート技士資格の取得を目指してほしい」としている。技士資格を取得すると自信がつくほか、業界をもっと知ろうという意欲や、業界の先を考えようという「前向きさ」が生まれる。マニッシュさんも昨年コンクリート技士資格を取得した。新東産業の田辺昭人氏が開く勉強会に参加したほか、試験3ヶ月前からは毎日1年分の過去問を解いて試験対策をしたそう。「今後も生コンについての知識を深め、メンテナンス係として、より働きやすい環境づくりをしていければと思います。今は洗車設備のメンテナンス性を向上する工夫を考えているので、一つひとつ改善していきたいです」と最後まで勤勉さがにじみ出ている。



21 大型コンクリートミキサー車
工場で作られた生コンクリートをかたまらせずに工事現場へ運ぶ車です。写真の車は、およそ11.5トンの生コンクリートを運ぶことができます。

児童用図鑑に掲載されたアジテータ車

KAWASHIMA

KAWASHIMA
CONCRETE INDUSTRY INC.

つながる
未来へ。

完全遮熱型プラント

暑中コン対策が備わった『完全遮熱型プラント』

「材料受入」から「現場への出荷(搬送)」まで、
すべての生コンクリート製造工程において



骨材受け入れホッパ

屋根に遮熱塗装(クールタイトSi)



ベルトコンベア

筒管、中計施設の屋根に遮熱塗装(クールタイトSi)



骨材サイロ

サイロ全体に遮熱塗装(SGハイコート)



練り混ぜ水冷却装置
クーリングダッシュシステム

日本初

クーリングダッシュを活用することで、生コンクリート用の練り水の温度を最低2℃まで冷却しています。この冷却効果によって、打設後の「ひび割れ発生の抑制」「安定した強度の増進」を可能にしました。



コンクリート製造プラント

クーリングダッシュによる冷却水、
屋根に遮熱塗装(クールタイトSi)



ミキサー車

ドラム部分に遮熱塗装



太陽光発電システム



非常用
ディーゼル
発電設備



環境確保条例認可工場

河島コンクリート工業株式会社

〒175-0081 東京都板橋区新河岸 1-11-8
TEL:03-5921-0308 FAX:03-5921-0908
<http://www.kawashima-concrete.co.jp>